

水俣病を現地で研究

熊大 スウェーデンの学者ら 協力

水銀禍の恐れが出ているソ連
スウェーデン西国から医学者が近
く来航、熊大などの援助で水俣病
を研究する。有機水銀の恐怖は、
新潟、水俣だけでなく、世界的に
広まってきたようだ。

スウェーデンの調査班は国立衛
生研究所の派遣で、メンバーはル
ンド大学衛生学教室のマッス・ベ
ルリン教授、カロリンスカヤ病院
職業病科医長のスペンソン氏ら三
人。一行は一日に東京へ着いてお

り、十日から三日間新潟、二十三
日から四日間水俣市をそれぞれ
現地調査、新潟大や熊本大の関係
者、有機水銀中毒患者の家庭など
実情を視察する。

熊大に届いたベルリン教授の手

紙によると、スウェーデンでは木
材の漂白剤や農薬に含まれた水銀
が川や湖に流入。魚や貝から有機
水銀が検出されたり、山野でとれ
たキジの臓器にも水銀が蓄積され
た。また農民や漁民の毛髪、血液
などからかなりの量の水銀が検出
されているといわれ、水銀禍の恐

れがあるという。

熊大では武内教授は同じ水俣病
研究班のメンバーである熊大衛生
学教室の入鹿山巨朗教授、生化学
教室の内田慎男教授らと連絡をと
り、受け入れ準備を始めている。

いっぽう、ソ連では、最近の著
しい工業化で各地に水銀禍など脳
中枢神経疾患が散発しているた
め、精神神経学会が若手の医師二
人を派遣するもので、十月に来
航、半年間滞在する予定。

熊本では、熊本日ソ親善協会
(木下崑会長)が中心に受け入れ
準備を進めており、熊大でも教授
会で協力を決定している。